

# 第195回 中小企業の景気動向調査

調査時点 2023年2月下旬～3月上旬  
 調査対象期間 2023年1月～3月実績 2023年4月～6月見通し  
 調査対象企業 当金庫お取引先1, 691社(大阪府内ならびに尼崎市)  
 回答企業数 672社  
 回答率 39.7%  
 調査方法 調査票郵送による回答、インターネットによる回答  
 分析方法 DI(Diffusion Index)を中心に分析  
 DIとは、売上、収益、価格、数量について、「増加」(上昇)と回答した企業割合から「減少」(低下)と答えた企業割合を差し引いた値  
 [例: 売上DIの場合]  
 売上が「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いて求めます。

売上が「増加」した企業 45%	「変わらず」 20%	売上が「減少」した企業 35%
--------------------	---------------	--------------------

45% - 35% = 10 ← 売上DI

## アンケート回答企業の内訳

業種別 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計 構成比
1～4	37	30	42	5	32	18	2	50	216	32.1%	32.1%
5～10	58	20	10	3	42	14	5	15	167	24.9%	57.0%
11～20	61	16	4	3	21	9	6	4	124	18.5%	75.4%
21～30	21	7	2	1	7	6	10	0	54	8.0%	83.5%
31～50	17	4	2	1	2	8	6	3	43	6.4%	89.9%
51～100	10	4	2	1	4	10	6	3	40	6.0%	95.8%
101～	8	4	2	0	1	5	3	1	24	3.6%	99.4%
無回答	0	0	2	0	1	1	0	0	4	0.6%	100.0%
計	212	85	66	14	110	71	38	76	672	100.0%	
構成比	31.5%	12.6%	9.8%	2.1%	16.4%	10.6%	5.7%	11.3%	100.0%		

(製造業の内訳)

食料品	繊維	木材	家具・建具	パルプ・紙	印刷	化学
4.7%	8.1%	1.4%	1.9%	1.4%	8.1%	5.7%
ゴム・革	鉄鋼	建材	非鉄金属	金属製品	電子部品	その他
3.8%	12.3%	0.0%	3.8%	35.1%	4.7%	9.0%

売上D Iは-6.3（前回比△3.3ポイント）、収益D Iは-21.0（前回比△3.8ポイント）となり、業況は前回調査から後退しました。

コロナ禍での経済活動に対する制約が徐々に解消される中、売上D Iは、飲食業が42.8（前回比+20.3ポイント）と急回復しましたが、小売業は-27.2（前回比△0.1ポイント）、運輸業は-18.4（前回比△35.0ポイント）と低調に推移し、業種間でばらつきが見られました。

販売価格D Iは、29.8（前回比+0.6ポイント）、販売数量D Iは-8.8（前回比+1.0ポイント）と上昇幅は小さいもののいずれも上昇しています。

2023年4-6月期は、売上D Iが7.7ポイント、収益D Iが11.9ポイント上昇し、販売価格D Iが1.2ポイント下落、販売数量D Iが4.8ポイント上昇すると予測し、販売数量の増加による業況の回復に期待しています。

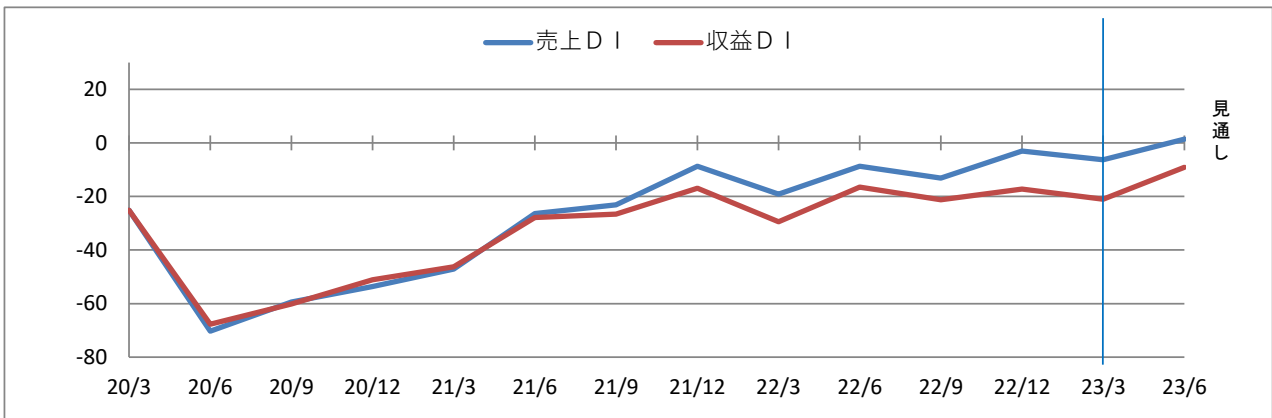
その背景には、5月8日から新型コロナウイルスの感染法上の分類が5類に変更されることや、賃上げ機運の高まがあると思われま。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が75.9%、「売上受注の停滞・減少」が50.3%、「一般経費増大」46.2%、「人手不足」が39.7%といずれも前回調査から上昇し、景気の回復への期待が高まるものの多岐に亘る経営課題への対応に迫られています。

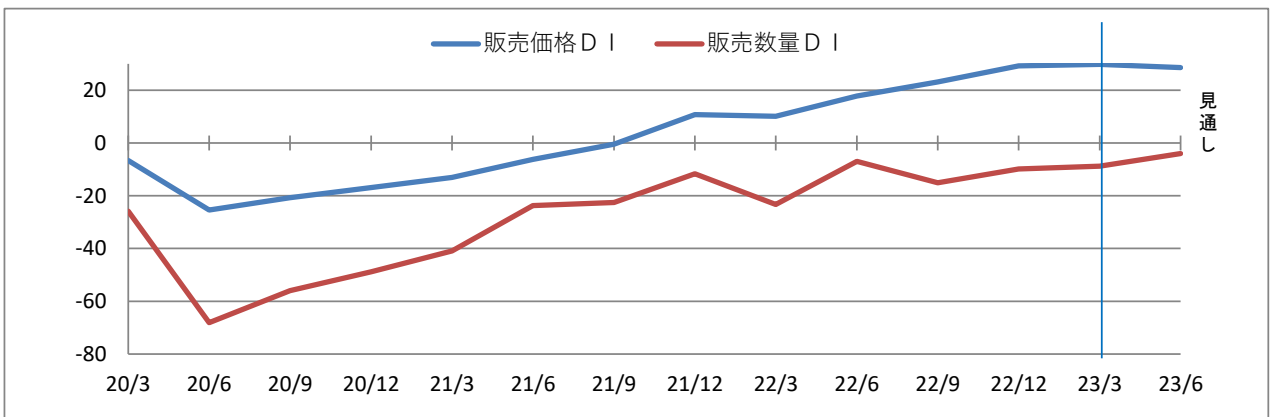
設備投資は「実施中」12.0%（前回比±0.0ポイント）、「予定あり」13.4%（前回比+1.8ポイント）の合計25.4%となり、業況回復への期待を背景に、堅調に推移しています。特に、飲食業は42.9%（前回比+9.6ポイント）、サービス業は35.3%（前回比+16.3ポイント）となり、設備投資意欲は高まっています。

売上D I・収益D Iの推移

n= 672

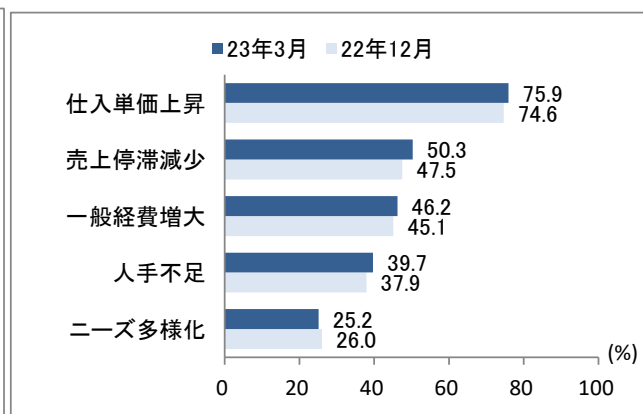
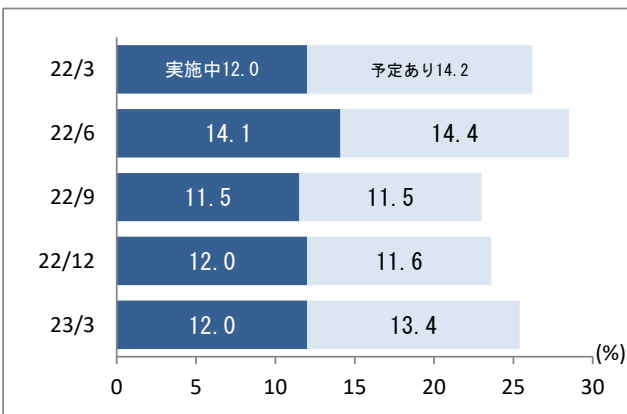


販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向

経営上の問題点



売上D Iは+1.9（前回比+2.3ポイント）、収益D Iは-17.9（前回比+0.9ポイント）となり、前回調査時の1-3月期の見通しと比べ、売上D Iは10.5ポイント、収益D Iは2.9ポイントそれぞれ上振れし、業況は上向きました。

2023年4-6月期は、売上D Iが6.6ポイント、収益D Iが10.3ポイント上昇し、販売価格D Iが2.4ポイント下落、販売数量D Iが3.9ポイント上昇すると見込んでおり、価格転嫁だけでなく販売数量の増加により売上や収益の回復に繋がると予想しています。

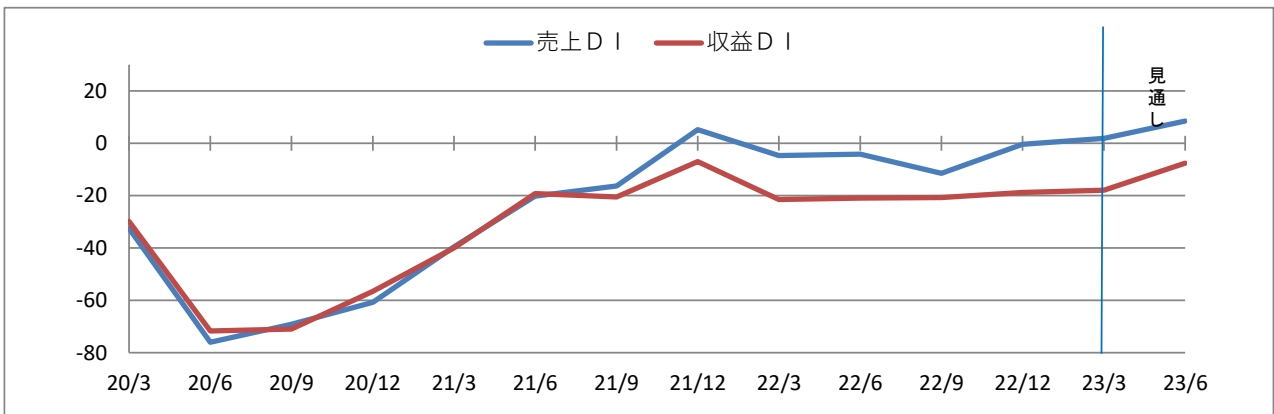
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が86.7%と最大となる他、「人手不足」が6.2ポイント、「一般経費増大」が5.9ポイント上昇しています。消費者の購買意欲が低下する中、受注価格引上げ交渉が難航する企業も見られ、商品価格の適正化が待たれます。また、電気などエネルギー価格上昇による経費増大や仕入先の廃業により生産に支障をきたす企業もあり、景気は回復基調にあるものの視界良好までにはもう少し時間が必要です。

製缶・溶接業界では、「人手不足により技術の承継ができない」といった声も聞かれ、若手人材の確保は喫緊の課題です。

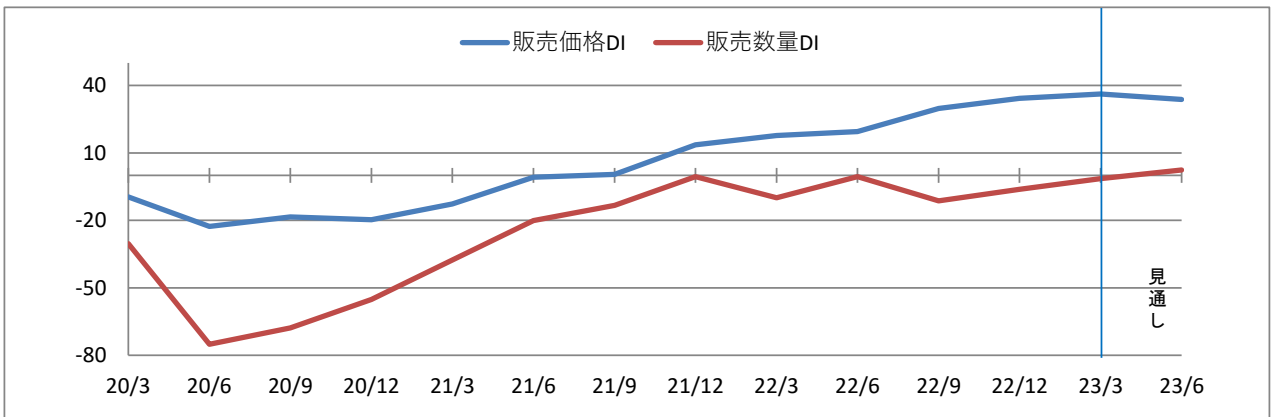
設備投資は「実施中」が13.8%（前回比△1.0ポイント）、「予定あり」が14.3%（前回比+2.4ポイント）で合計28.1%となり、業況の回復とともに設備投資意欲は前回調査時より少し上昇しています。

売上D I・収益D Iの推移

n = 212

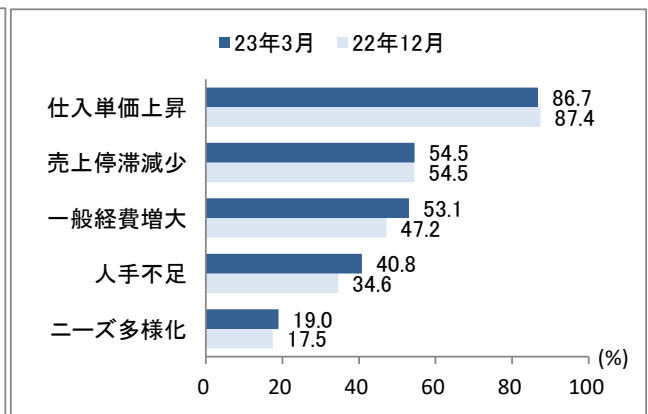
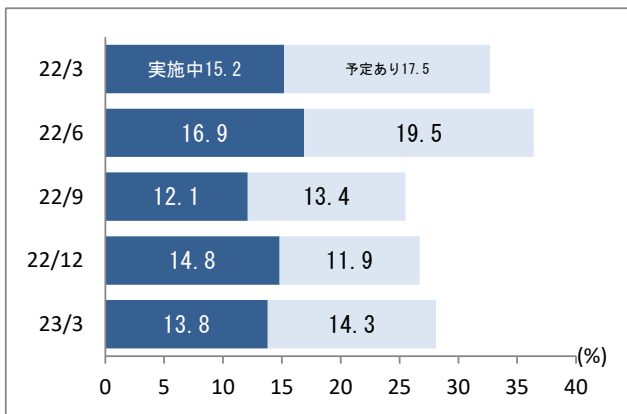


販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向

経営上の問題点



# 卸売業

## 追い風(制限緩和)と逆風(節約志向)

売上D Iは-4.7(前回比△10.6ポイント)、収益D Iは-20.0(前回比△3.4ポイント)となり、前回調査時の1-3月期の見通しと比べ、売上D Iは7.1ポイント、収益D Iは2.5ポイントそれぞれ上振れました。

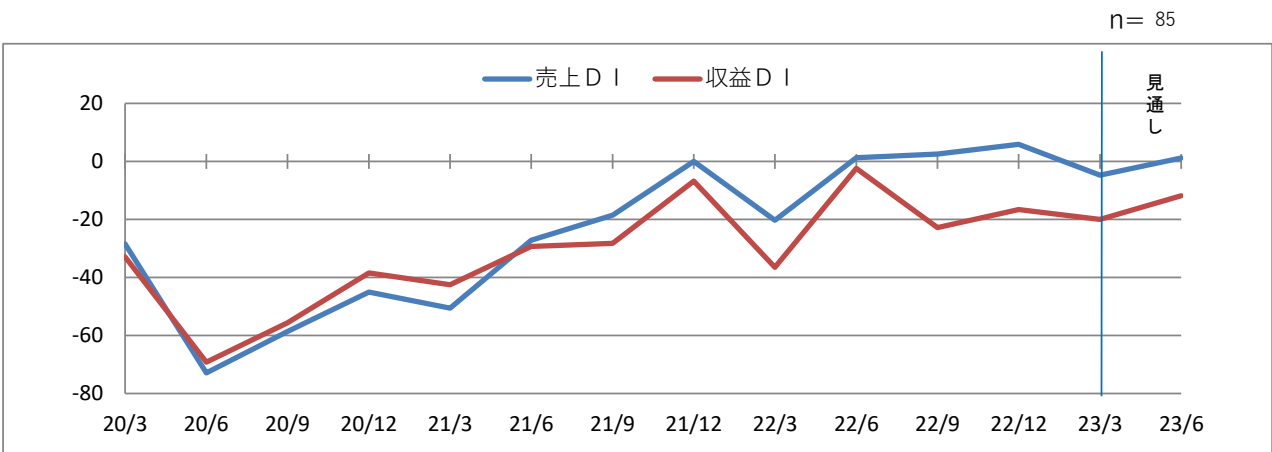
為替相場の安定や行動制限・外国人入国制限緩和の追い風が吹く一方、先の見えない価格高騰や消費者の節約志向は根強く、販売数量が大きく落ち込んでいます。

2023年4-6月期は、売上D Iが5.9ポイント、収益D Iが8.2ポイントそれぞれ上昇し、販売価格D Iが9.3ポイント下落、販売数量D Iが2.3ポイント上昇すると見込んでいます。売上の減少には歯止めがかかると予想していますが、これ以上の価格の引上げは困難な状況です。

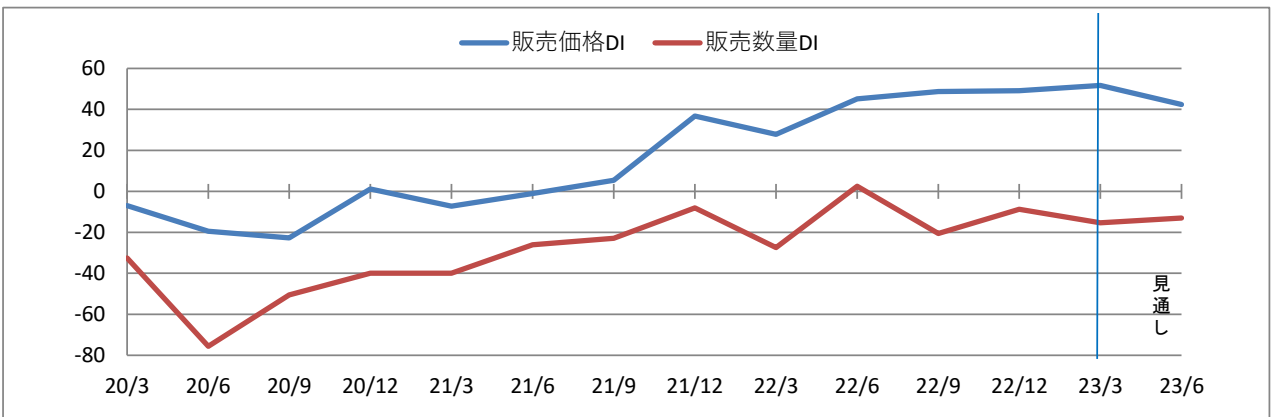
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が87.1%(前回比+4.7ポイント)、「一般経費増大」が48.2%(前回比+9.0ポイント)と依然高止まりし、業況は一進一退となっています。

仕入価格の上昇は未だ続いており消費者の節約志向がさらに強まる中、経営者は販売価格の設定に厳しい判断を強いられています。

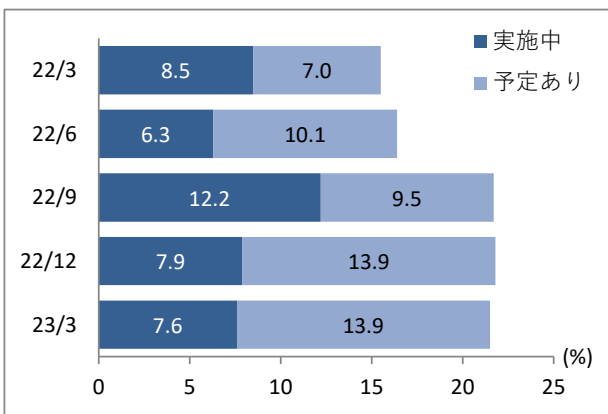
設備投資は「実施中」が7.6%(前回比△0.3ポイント)、「予定あり」が13.9%(前回比±0.0ポイント)で合計21.5%となり、先行きの業況回復への期待から堅調に推移しています。



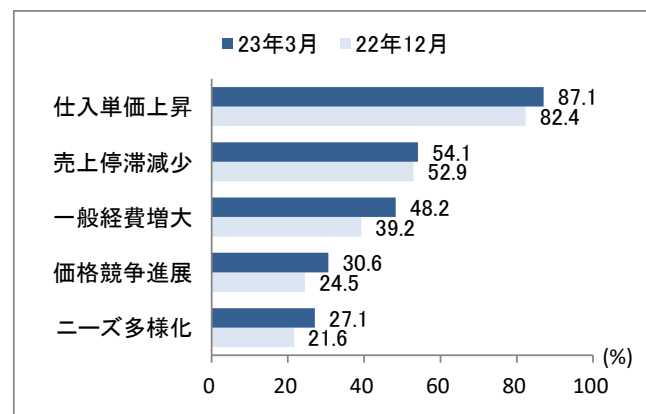
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



# 小売業

## 価格転嫁限界 強まる買い控え

売上D Iは-27.2（前回比△0.1ポイント）、収益D Iは-36.3（前回比△6.0ポイント）と2022年6月以降ほぼ横ばいに推移し、依然大きなマイナス圏にあります。

前回調査時の1-3月期の見通しと比べ、売上D Iは4.5ポイント、収益D Iは0.2ポイント上振れましたが回復の力強さに欠けます。

販売価格や販売数量の引上げにはブレーキがかかりました。小売業の中には、「在庫を持った実店舗販売は年々厳しさを増し、ネット販売など新しい販売方法を模索する」と考える企業も出てきています。

2023年4-6月期は、売上D Iが1.5ポイント下落し、収益D Iが6.0ポイント上昇すると予想しています。

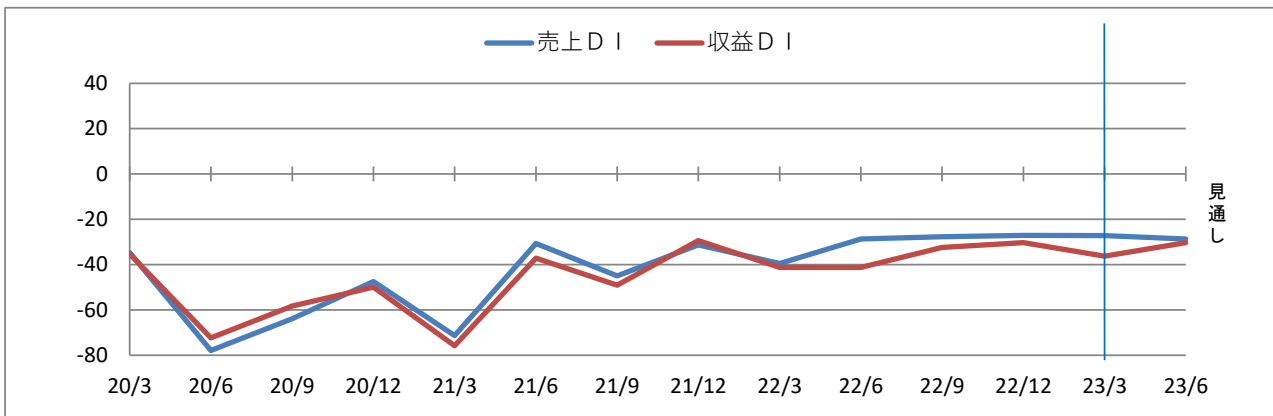
新型コロナウイルス感染症が、5月8日から感染法上の分類が「5類」に引き下げられるなど追い風もある一方、価格の高騰から消費者の生活防衛意識は一層強まり、今後も苦戦を強いられそうです。

販売価格D Iは30.8（前回比△10.5ポイント）、販売数量D Iは-30.8（前回比+1.0ポイント）となり、これ以上の価格転嫁は困難な上、数量の増加も見込みにくい状況です。

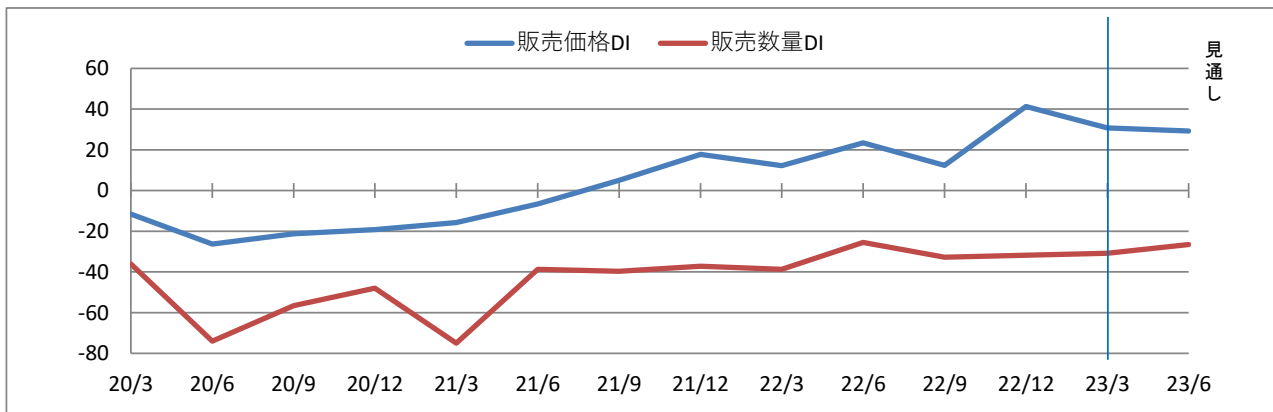
経営上の問題点は、「仕入単価の上昇」が67.7%、「売上停滞減少」が52.3%と続く中、「価格競争進展」が27.7%（前回比+11.8ポイント）に上昇し、同業他社との価格競争も激しさを増しています。

設備投資は「実施中」が4.7%（前回比△6.6ポイント）、「予定あり」が9.4%（前回比△1.9ポイント）で合計14.1%となりました。業況回復の見通しは立たず、設備投資の予定はするものの実施には至らない状況にあります。

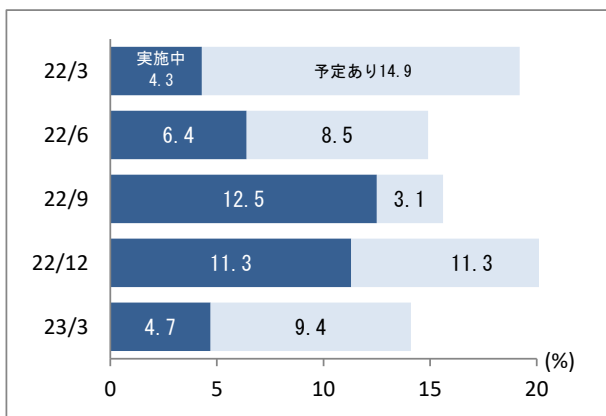
n = 66



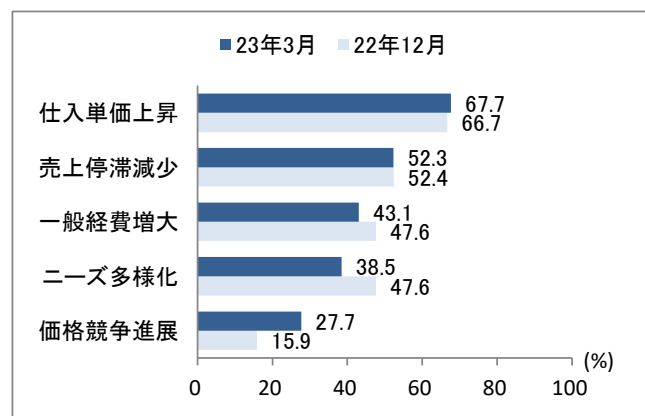
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



# 飲食業

## 戻る来店客 新メニュー模索

売上D Iは42.8（前回比+20.3ポイント）、収益D Iは7.1（前回比+16.8ポイント）と、売上・収益ともに急回復しています。前回調査時の1-3月期の見通しと比べ、売上D Iは26.7ポイント、収益D Iは16.8ポイントそれぞれ上振れました。行動制限・外国人入国規制緩和による影響は絶大で、業況は大きく回復しています。

販売価格D Iは28.6（前回比△1.5ポイント）、販売数量D Iは21.4（前回比+11.5ポイント）となり、販売数量が急増しました。

2023年4-6月期は、売上D Iが横ばい推移、収益D Iは7.1ポイント上昇し、販売価格D Iは14.3ポイント、販売数量D Iは7.1ポイントそれぞれ下落すると予想しています。

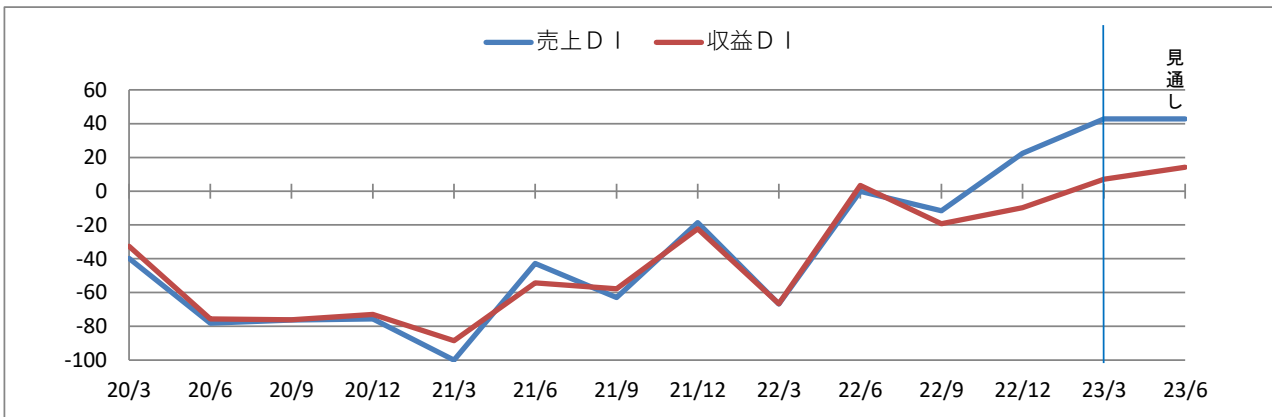
新型コロナウイルスの感染法上の分類が、5月8日から5類に変更されるなど、業況は好調が続くと予想されます。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が92.3%（前回比△4.5ポイント）と依然高水準で推移し、「一般経費増大」が61.5%（前回比+3.4ポイント）、ニーズ多様化が53.8%（前回比+18.3ポイント）となりました。業況の回復とともに、外国人向けや花見用に新メニューを検討するなど、事業に前向きな企業が増加しています。

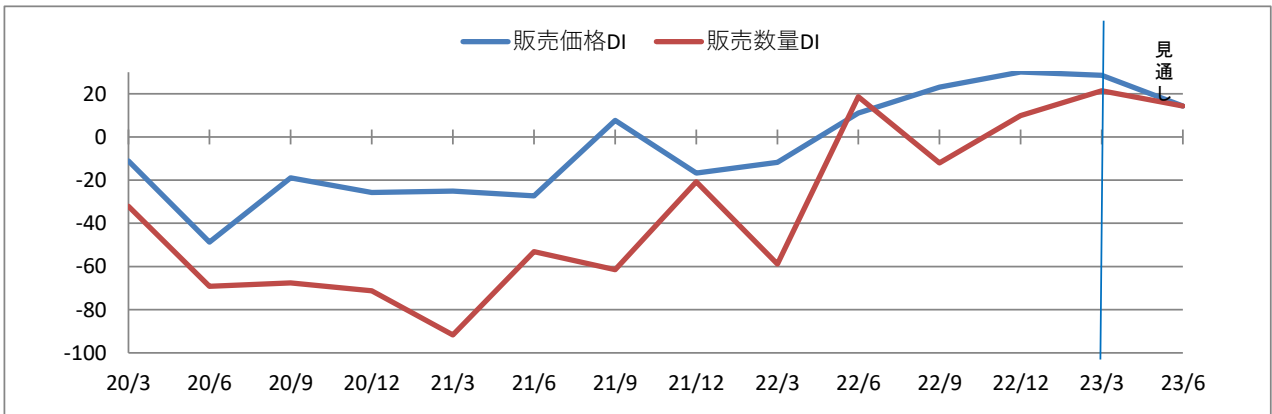
設備投資は「実施中」が28.6%（前回比+15.3ポイント）、「予定あり」が14.3%（前回比△5.7ポイント）で合計42.9%となりました。業況の急回復とともに設備投資意欲は大きく上昇しています。

売上D I・収益D Iの推移

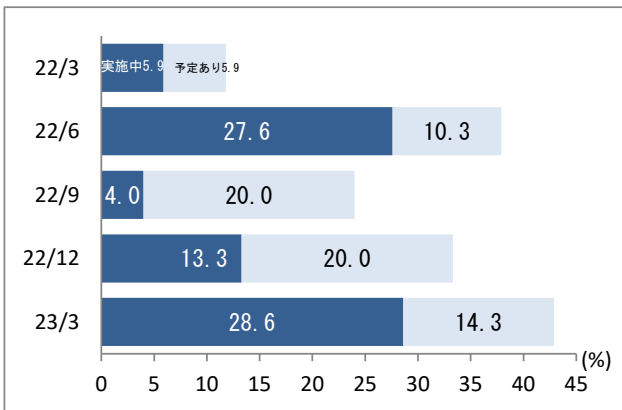
n= 14



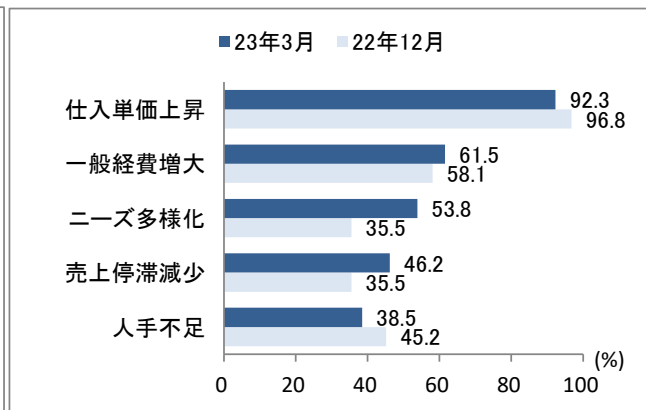
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



# 建設業

## 回復期待あるも 深刻な人手不足

売上D Iは-11.9（前回比+1.9ポイント）、収益D Iは-26.6（前回比△5.9ポイント）と回復に力強さが欠けます。前回調査時の1-3月期の見通しと比べ、売上D Iが0.7ポイント、収益D Iが4.1ポイントとそれぞれ大きく下振れし苦戦しています。

販売価格D Iは22.4（前回比+6.6ポイント）、販売数量D Iは-11.0（前回比+0.1ポイント）とそれぞれ上昇しました。長期化する材料価格の高騰は販売数量の増加にブレーキとなっています。

大阪の公共投資請負額は増加していますが、長期化する建築資材の高騰が販売価格の上昇を招き、さらに住宅ローン金利の上昇が追い打ちをかけ、消費者の購買意欲低下に拍車をかけています。

2023年4-6月期は、売上D Iが10.1ポイント、収益D Iが18.4ポイントそれぞれ上昇すると予想しています。

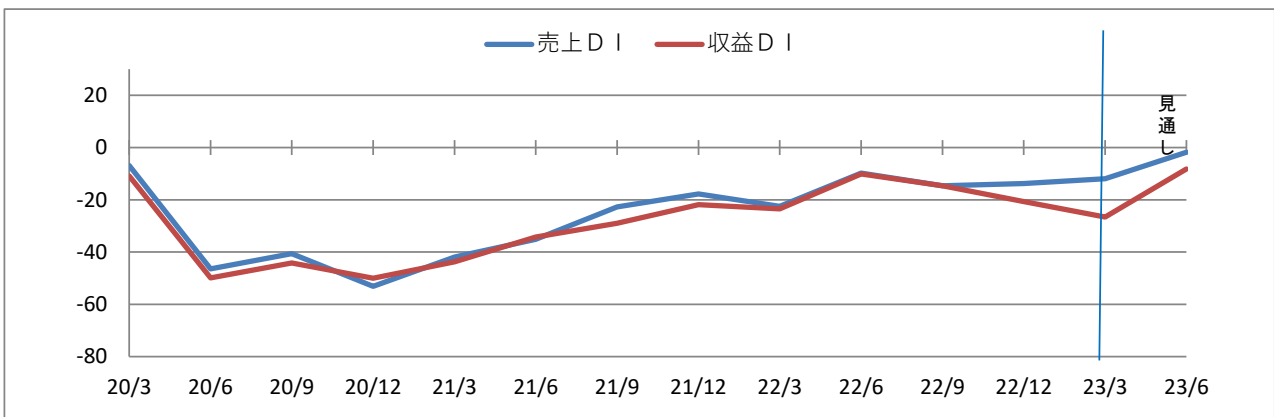
大手だけでなく中小企業でも賃上げの機運が高まっており、消費者の購買意欲回復に期待する姿が見られます。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が77.1%（前回比△0.1ポイント）、「人手不足」が60.6%（前回比+4.5ポイント）と依然として高止まりし、特に人手不足の深刻さは受注に大きな影響を及ぼしています。

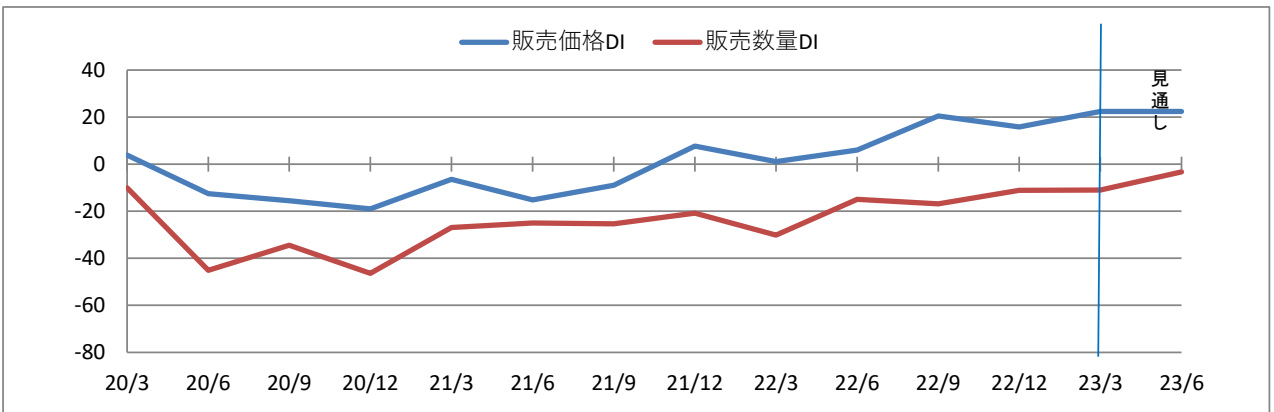
設備投資は「実施中」が11.2%（前回比+2.3ポイント）、「予定あり」が13.1%（前回比+6.8ポイント）で合計24.3%となり、消費者の賃上げに伴う購買意欲の回復に期待を寄せています。

売上D I・収益D Iの推移

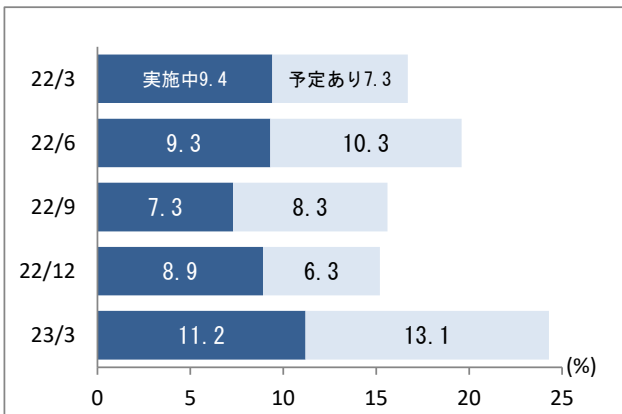
n= 110



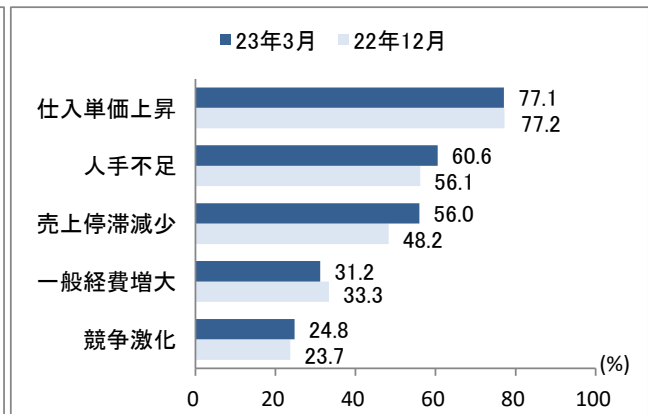
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



# サービス業

## 先行き期待するも深刻な人手不足

売上D Iは-5.6（前回比△8.0ポイント）、収益D Iは-16.0（前回比△7.7ポイント）と下落し、前回調査時の1-3月の見通しを売上D Iは10.3ポイント、収益D Iは10.0ポイントそれぞれ下振れし、苦戦しています。

販売価格D Iは8.9（前回比+4.8ポイント）、販売数量D I-7.7（前回比+0.8ポイント）となりました。

2023年4-6月期は、売上D Iが7.0ポイント、収益D Iは10.2ポイントと上昇すると予想し、消費者の賃上げなど経済活動が活発化していく中、需要の増大に期待が高まっています。

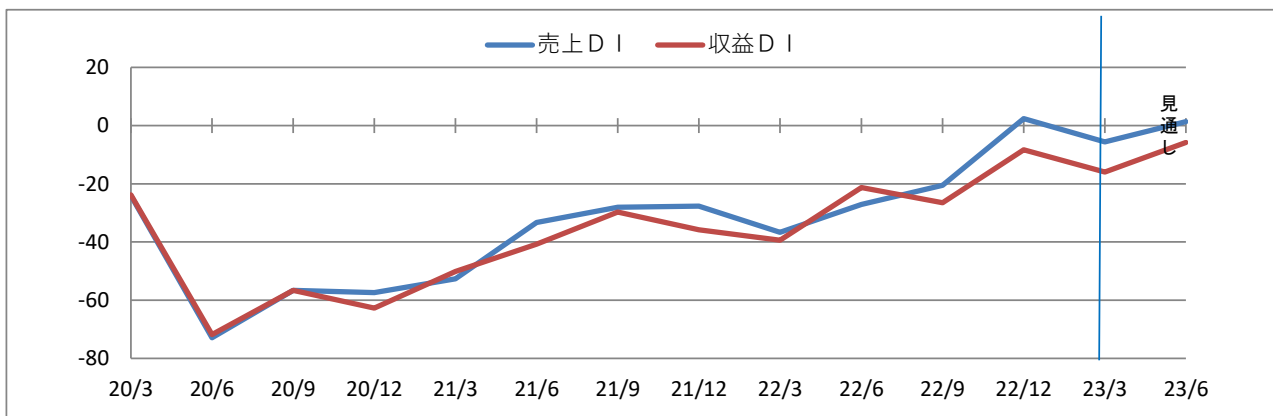
経営上の問題点は、「人手不足」が53.7%、「一般経費増大」が47.8%と続きました。

介護業界では人材確保・維持のため人件費が増大する状況が続いていますが、「業務に精通した主力人材の退職により対応に終われる」といった声も聞かれ、業績改善の前に人員確保が喫緊の課題となっています。

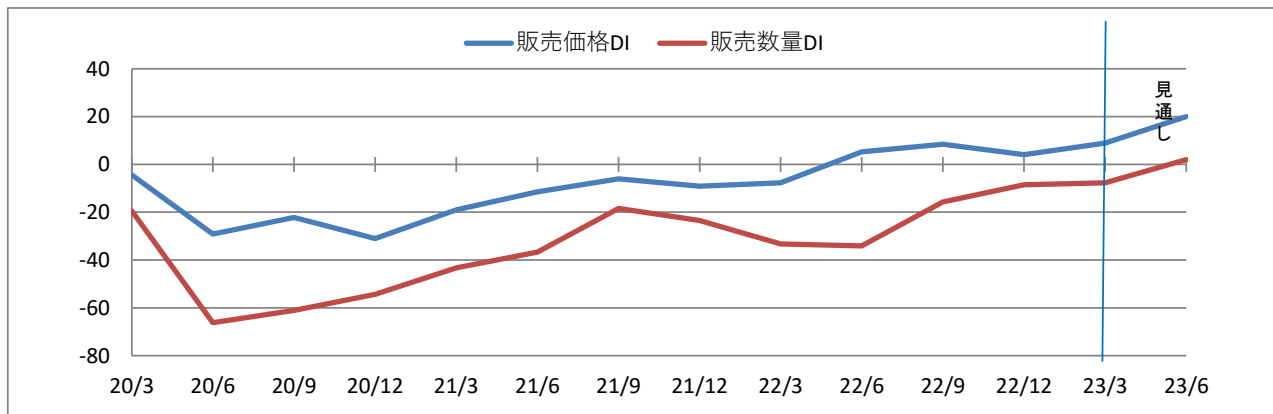
設備投資は「実施中」が16.2%、「予定あり」が19.1%で合計35.3%となり、特に設備投資を予定する割合は直近1年で最も高く、業績改善への期待が設備投資意欲を高めています。

売上D I・収益D Iの推移

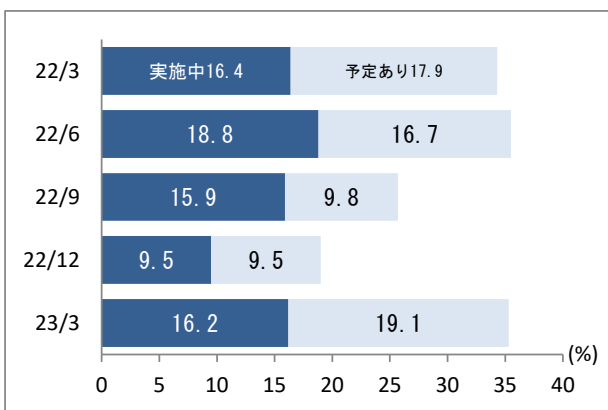
n= 71



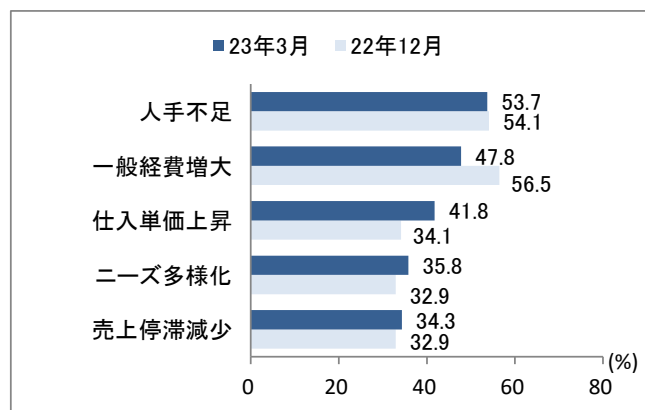
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点





# 運輸業

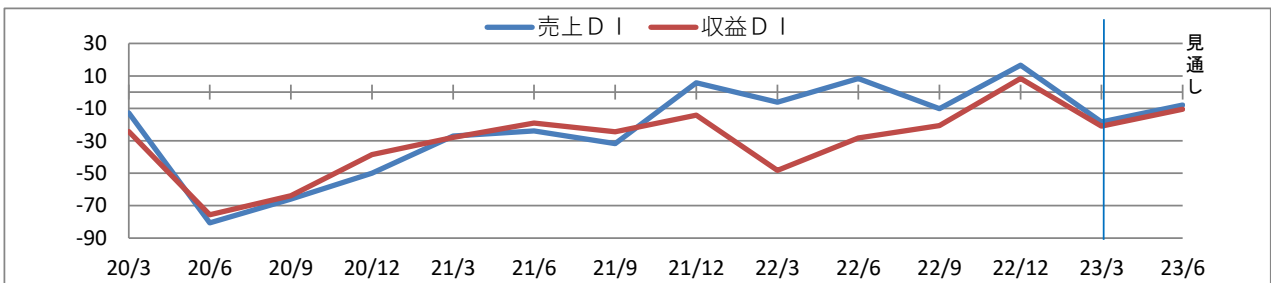
## 鉄価格上昇 鋼材輸送減少

売上D Iは-18.4（前回比△35.0ポイント）、収益D Iは-21.0（前回比△29.4ポイント）と大幅に悪化しています。鉄価格などの上昇から鋼材の運搬需要は激減しています。

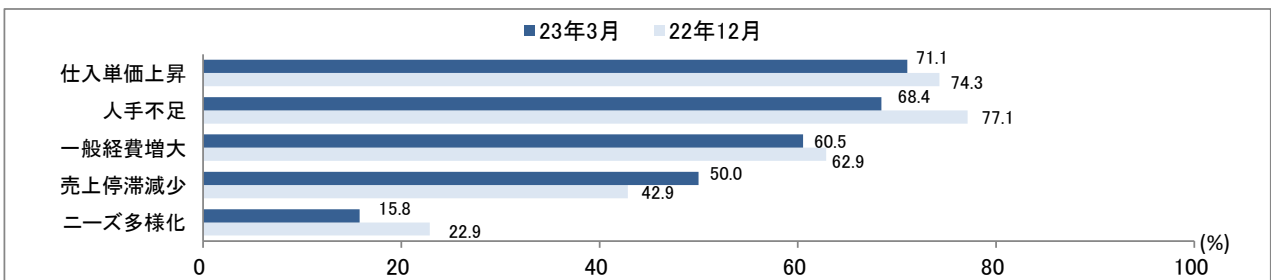
前回調査時の1-3月の見通しから、売上D Iは15.6ポイント、収益D Iは4.3ポイントそれぞれ下振れし、2023年4-6月期は、売上D Iが10.5ポイント、収益D Iは10.4ポイントそれぞれ上昇すると予想しています。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が71.1%、「人手不足」が68.4%、「一般経費増大」が60.5%と依然として高止まりしています。経済活動の活発化により輸送需要の増加が期待されますが、ドライバーの確保は深刻な状況が続いています。業界内では、2024年問題など差し迫った課題もあり、業況の先行きに多くの懸念材料を抱えています。

売上D I・収益D Iの推移



経営上の問題点



# 不動産業

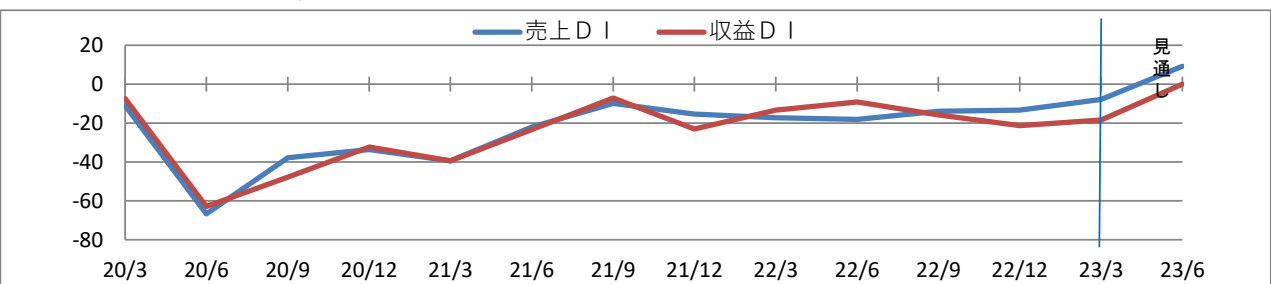
## 長期化する物件価格高止まり

売上D Iは-7.8（前回比+5.6ポイント）、収益D Iは-18.4（前回比+2.9ポイント）とそれぞれ上昇し、前回調査時の1-3月期の見通しから売上D Iは0.2ポイント上振れ、収益D Iは10.4ポイント下振れました。

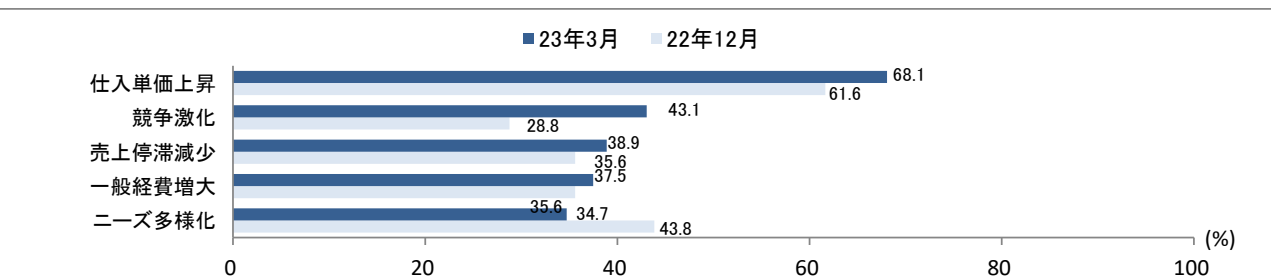
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が68.1%、「競争激化」が43.1%と続きます。

好立地の物件価格は高止まりする一方、空き家問題などの声も聞かれ、需要の見込まれる地域とそうでない地域との二極化が進展しており、大阪府下においても人口減少局面での不動産事業の難しさが出てきているようです。

売上D I・収益D Iの推移



経営上の問題点

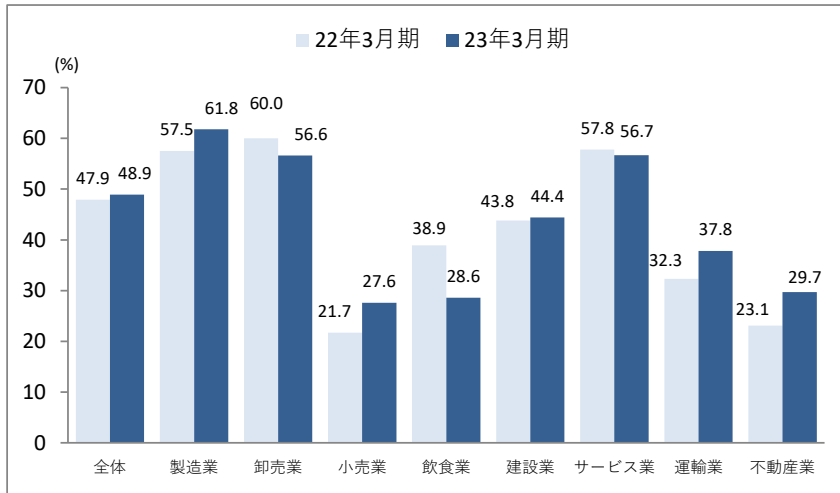


# 賃上げについて

# 苦渋の決断！人材確保型賃上げ

賃上げ実施予定企業の割合（業種別）

回答企業数：648社



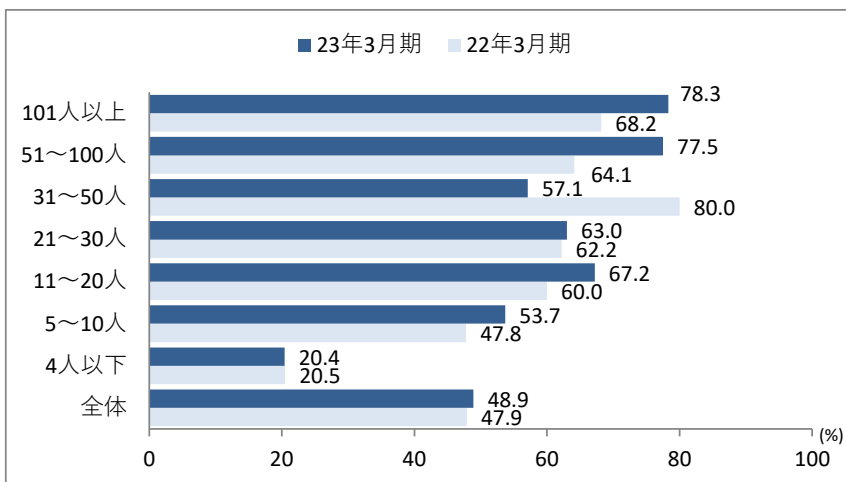
「実施予定」が48.9%となり、昨年と比べて1.0ポイント上昇しました。

物価が大幅に上昇したことや人材獲得競争を背景に、人件費は上昇傾向が続いています。

中小企業にとっては、業績が十分に回復していない状態でも今後の回復に向け賃上げに踏み切らざるを得ず、苦渋の決断を迫られています。

賃上げ実施予定企業の割合（従業員数別）

回答企業数：648社



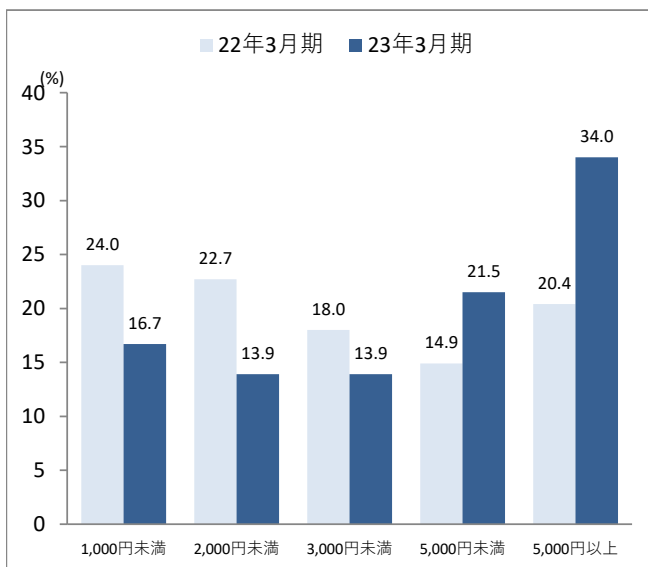
従業員数別で賃上げを実施するのは、親族経営の色合いが強い4人以下が20.4%と低く、従業員5人超の企業で全体の平均48.9%を大きく上回る賃上げ実施率となりました。

従業員31～50人は57.1%と昨年思い切った賃上げを実施した反動で、前期比で-22.9%低値しています。

ベースアップ、定期昇給とも景気の本格回復前にも関わらず金額の大きな実施企業が多く、人員確保や流出防止のため賃上げに踏み切らざるを得ない、人員確保型の賃上げが多く見られます。

ベースアップ予定額

有効回答数：288社



定期昇給予定額

有効回答数：270社

